

令和4年度国債発行計画の概要

○ 令和4年度は、3年度補正後に比べて、2年度に増発した2年債が償還を迎えるため、借換債等が増加する一方、新規国債が大きく減少するため、国債発行総額は▲9.3兆円減少、カレンダーベース市中発行額（定期的な入札による発行）は▲13.6兆円減少。

○ こうした中、足元でのカレンダーベース市中発行額は短期債に大きく依存（令和3年度補正後：74兆円、全体の35%程度）しており、金利変動に対して脆弱な資金調達構造となっていることから、短期債の発行減額（カレンダーベース市中発行額の減額分（▲13.6兆円））に努めるとともに、

市場ニーズを踏まえた国債発行を行い、

- ・ 市場からのニーズが強い、40年債の増額（+0.6兆円）、10年債の増額（+1.2兆円）、流動性供給入札の増額（+0.6兆円）
- ・ 市場からのニーズが低く償還期限の短い2年債の減額（▲2.4兆円）

新型コロナ対応で短期化した平均償還年限を是正（令和3年度補正：7年1カ月→令和4年度当初：7年9カ月）する。

発行根拠法別発行額

(単位：兆円)

区分	令和4年度当初	
	対3年度当初	対3年度補正後
新規国債 (建設・特例国債)	36.9 ▲6.7 (43.6)	▲28.7 (65.7)
復興債	0.2 ▲0.0 (0.2)	+0.1 (0.0)
財投債	25.0 ▲20.0 (45.0)	+10.0 (15.0)
借換債	152.9 +5.7 (147.2)	+9.3 (143.7)
国債発行総額	215.0 ▲21.0 (236.0)	▲9.3 (224.4)

消化方式別発行額

(単位：兆円)

区分	令和4年度当初	
	対3年度当初	対3年度補正後
カレンダーベース市中発行額 (定期的な入札による発行)	198.6	▲13.6 (212.2)
その他 (個人向け国債等)	16.4	+4.3 (12.2)
合計	215.0	▲9.3 (224.4)

カレンダーベース市中発行額（年限別）

(単位：兆円)

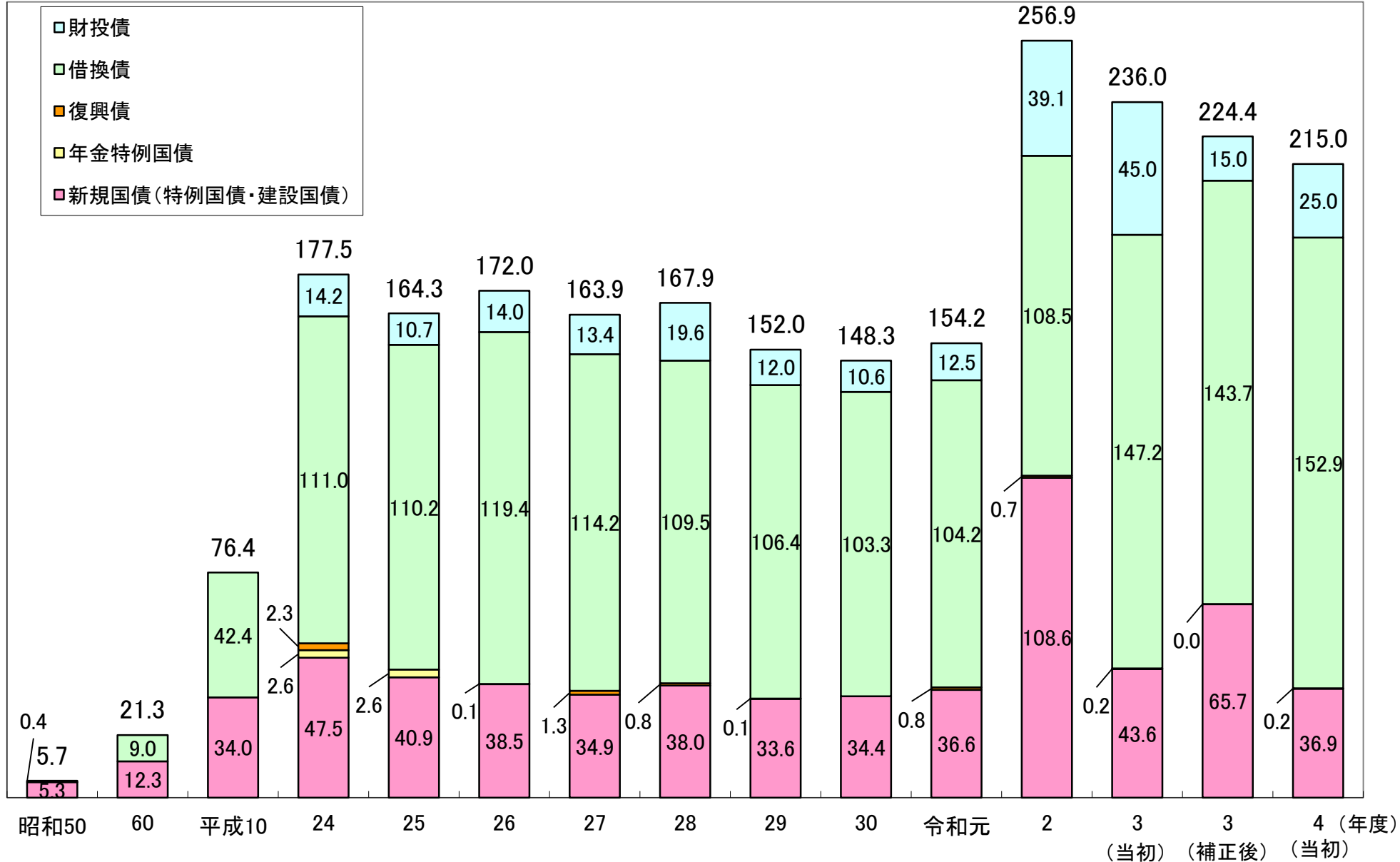
区分	令和4年度当初	
	対3年度当初	対3年度補正後
40年債	4.2	+0.6
30年債	10.8	-
20年債	14.4	-
10年債	32.4	+1.2
5年債	30.0	-
2年債	33.6	▲2.4
短期債	60.4	▲13.6
10年物価連動債	0.8	-
流動性供給入札	12.0	+0.6
合計	198.6	▲13.6

(注1) 括弧内の値は年間発行額

(注2) 計数ごとに四捨五入したため、合計において一致しない場合がある。

国債発行総額の推移

(兆円)



(注1) 令和2年度までは実績。

(注2) 計数ごとに四捨五入したため、合計において一致しない場合がある。

カレンダーベース市中発行額の推移

(兆円)

240

220

200

180

160

140

120

100

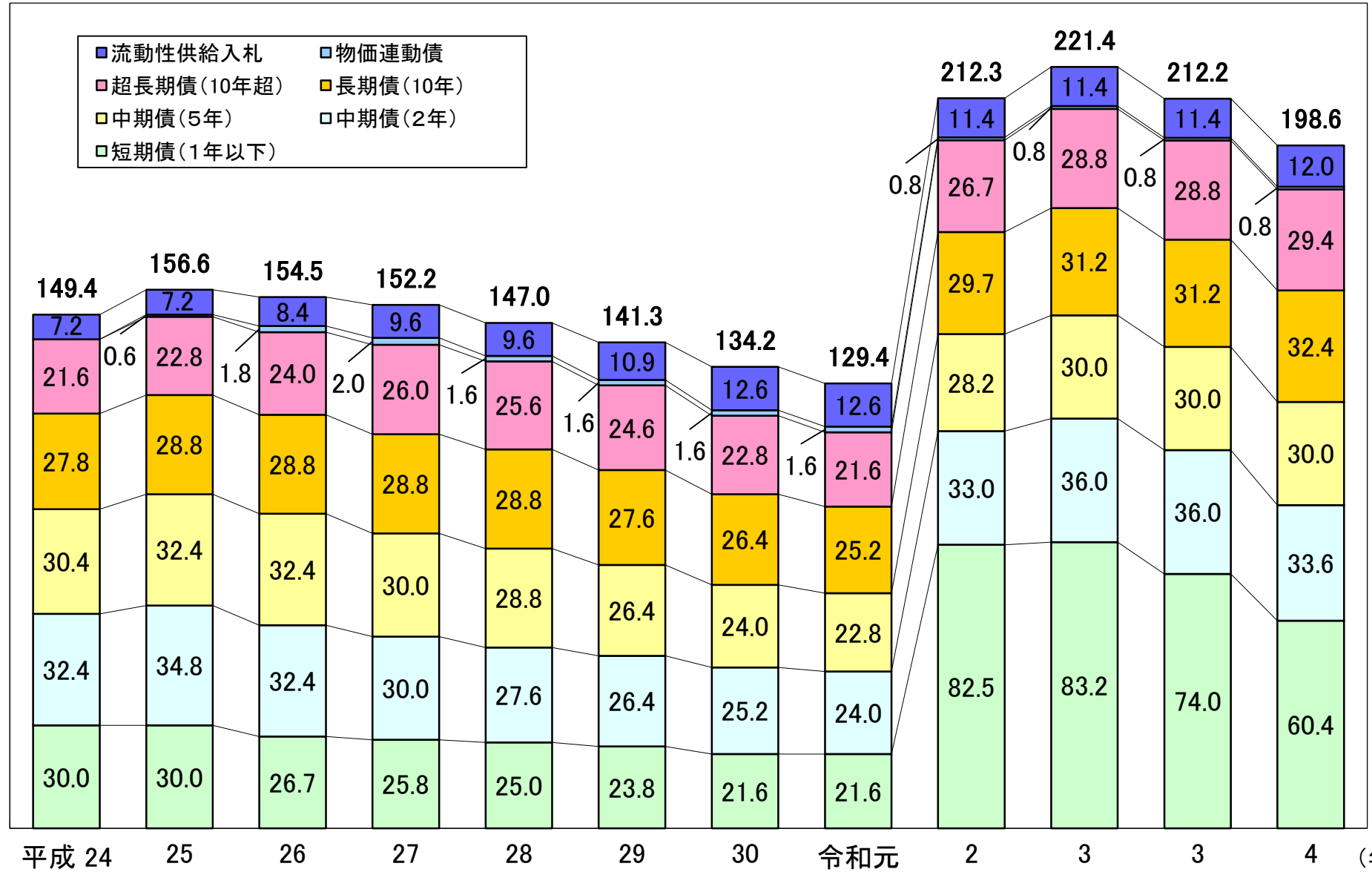
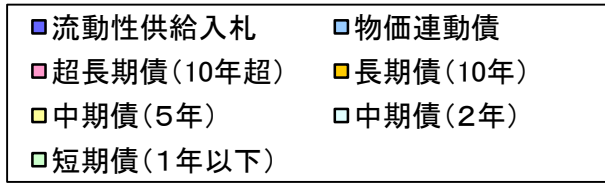
80

60

40

20

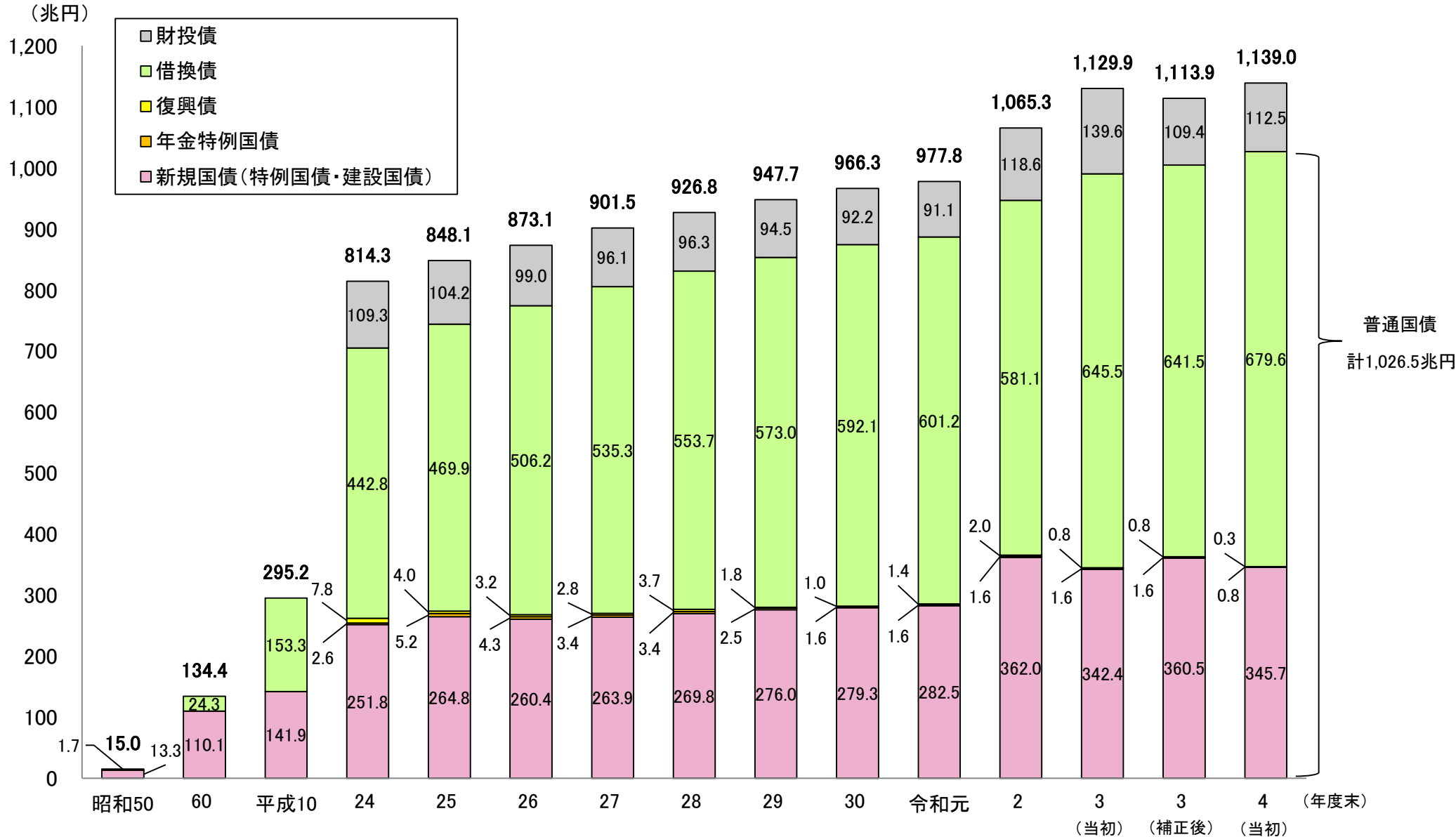
0



(注) 令和2年度までは最終補正ベース。

(当初) (補正後) (当初)

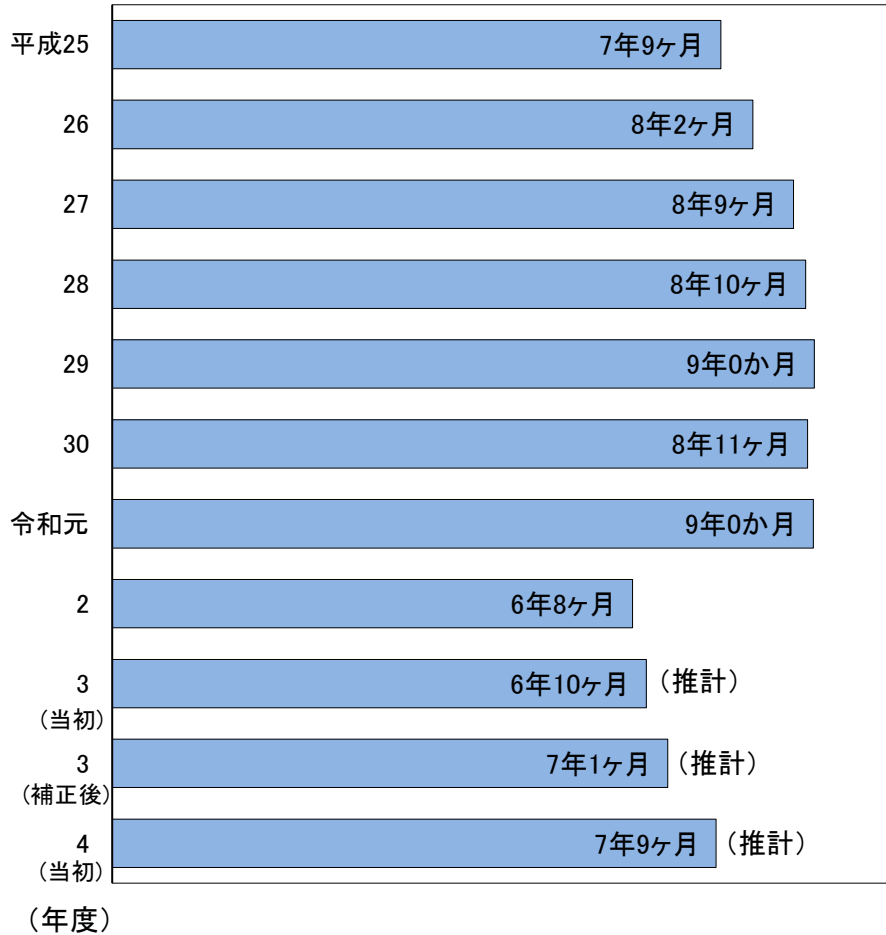
国債発行残高の推移



(注1) 令和2年度末までは実績、令和3年度末は当初予算ベース、補正予算ベースともに前倒債20兆円を含む。令和4年度末は当初予算ベース(前倒債20兆円を含む)。
 (注2) 計数ごとに四捨五入したため、合計において一致しない場合がある。

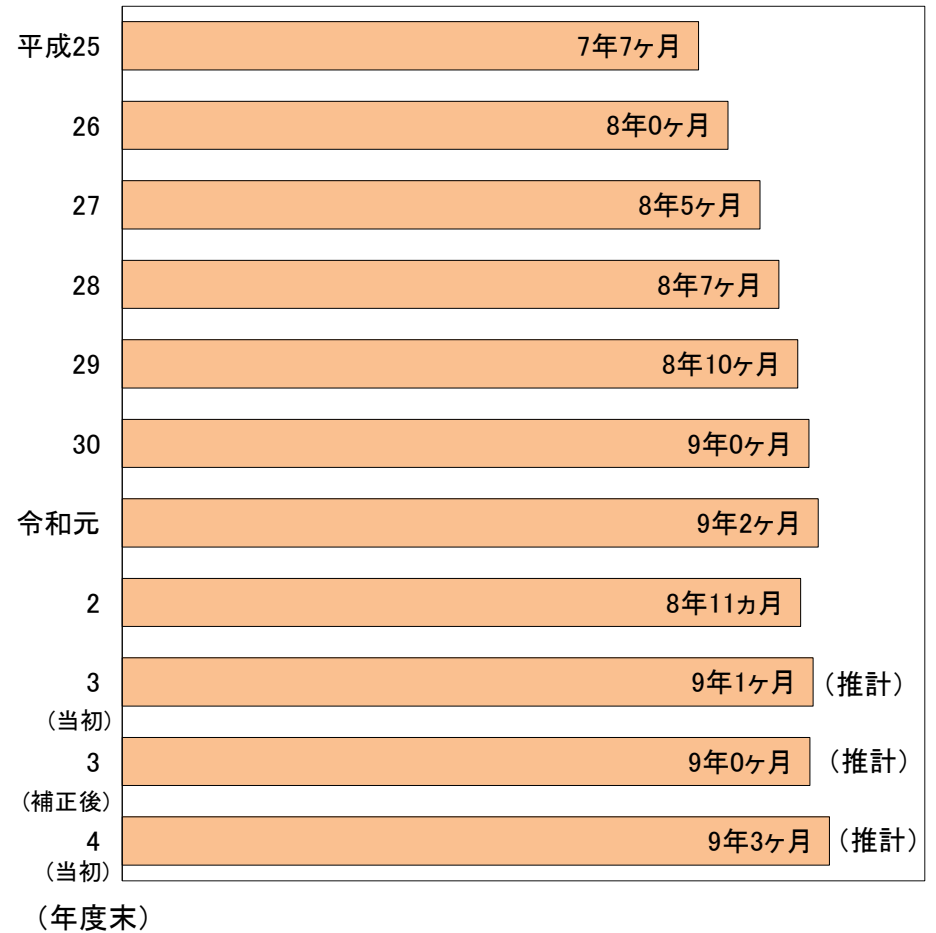
日本国債の平均償還年限

カレンダーベース(フロー)



(注) 令和2年度までは実績。

発行残高ベース(ストック)



(注) 普通国債残高。令和2年度末までは実績。